

# ひびき

教育目標：「なかよく かしく たくましく」

三本柱：さわやか挨拶 聞き方・話し方名人 いきいき運動

多治見市立共栄小学校 R元. 5. 31

## 【無言掃除のよさ】

校長 宮地敏彦

毎日、6年2組の子たちが校長室と校長室前の廊下を掃除してくれています。一心に磨かれた後の床は砂粒やほこりがなく、裸足で歩いてもしっかりとして気持ちがいいです。学校で最も来客の多い場所ですから、担当の子たちに心から感謝するとともに、誇らしい気持ちでお客さんを迎えられます。先月号では、「心を磨く掃除」について書きました。共栄小学校では全校が静まりかえった中で、15分間黙々と取り組む“もくもく掃除”を行っています。今回は、掃除を無言で行うことの意義（無言を通して身につけたい力）について書かせていただきます。

### ＜身につけたい力＞

#### ① 掃除の技能

しゃべらないことによって、掃除場所を効率よく掃除をすることができず。

#### ② 広い視野

床面だけでなく、壁や窓・天井など上の面・備品の裏側等、日常生活の視野に入らない箇所を磨きながら、そこを使用する人たちの生活ぶりまで、多面的に見る（知る）ことができます。

#### ③ 集中力

掃除に没頭することで集中力を高める脳波（アルファ波）が出ます。日々繰り返すことによって、アルファ波が出やすくなり、掃除以外の学習活動等でも集中しやすくなるという効果が期待できます。

#### ④ 自己実現力

掃除は、学力や運動能力、会話力などにかかわらず、誰でもできる活動であり、誰もがその技能を向上させることができます。より早く、より美しくすることを追求し、“もくもく掃除”を通して「達成感」や「充実感」を得るようになれば、それはその子にとって大きな「自信」と「誇り」につながります。『私は掃除が誰よりも上手』と言えれば、それは生涯にわたってその子の“強み”となります。

#### ⑤ 究極のチームワーク

ともに動く仲間が、今何を求め、どう動こうとしているのかを言葉のない中で察知し、それを助ける動きができます。これはスポーツのパフォーマンスと同じで、チームワークのよい集団ほどプレー中、言葉を交わさず瞬間的に判断し行動できるし、監督がタイムアウトを取ることがありません。掃除も同じです。

#### ⑥ 福祉の心

耳や口の不自由な方とも気持ちよく交流したり、協力して作業したりするためには、言葉よりも相手を思う心が必要です。それは④にも通じます。

※「福祉の心」とは、幸せをつくり出す力であると言えます。

#### ⑦ 奉仕の心

共栄小学校の校舎は構造上、下靴と上靴が共有されているエリアがあり、砂粒などの汚れが多いです。掃除してもすぐにまた汚れがちです。（ていねいにやってもしょうがないという思いにもなりがち）しかし、『だからこそ美しく保つのだ！』という気持ちをもつことができるようになり、人が面倒くさがったり、いやがったりするようなことに忍耐強く取り組むことができれば、それは「たくましく生きる力」であり、与えられた時間を楽しむことができる人になることができます。「奉仕の心」とは、自分の時間を捧げる喜びです。

そして、最終的に“もくもく掃除”がめざすのは、掃除時間以外にもゴミをひとつまみし、校舎を汚さず美しく保とうと心がける児童の育成です。“ひとつまみの心”は、次に、手をさしのべる“ひとにぎりの心”となり、介護につながる“ひとかかえの心”となり、やがて“ひとまたぎの心”となって、海をまたいでボランティア活動するような心へとつながっていきます。



＜磨く背中が輝く6年生＞

中学2年生になると「職場体験」学習があります。1～2日間で社会人のように動くことはできませんが、その中で職場の方から大きな信頼や好感を得る子がいます。それは掃除を黙々とやりきる子です。無言掃除を通じた「生きる力」の育成は陶都中学校でも重点化されています。今後も小中一環（9年間）で行う活動として取り組んでいきます。